

令和 6 年 3 月 3 日

山県市教育委員会教育長 様

第 3 回学校運営協議会報告

山県市立大桑小学校

校長 杉山 正高

このことについて、本校の学校運営協議会会則第 10 条に基づき、次の通り報告します。

1. 実施日時 令和 6 年 2 月 2 7 日（木） 午前 9 時 00 分～午前 10 時 5 0 分

2. 出席者 学校運営協議会委員

（加藤裕章委員、武藤嘉邦委員は欠席、日置智夫委員の代理 島戸ゆり）

傍聴の希望者はなし、合計 1 0 名

3. 内容

○授業参観

○検討事項

4. 検討事項（別紙資料）

○令和 6 年度後期学校関係者評価について

○令和 7 年度学校経営グランドデザインについて

○令和 7 年度学校行事案について

○その他

5. 検討結果

○令和 6 年度後期学校関係者評価について

・児童・保護者・教職員学校評価及び学校経営について、教頭及び校長から説明し、承認された。

○令和 7 年度学校経営グランドデザインについて

・令和 7 年度学校経営グランドデザインについて、校長から説明し、承認された。

○令和 7 年度学校行事案について

・令和 7 年度学校行事案について、教頭から説明し、承認された。

○その他

・来年度の学校運営協議会委員の任命について

→連合自治会長は、今年度末で任期満了のため 4 月に承諾を得ることとする。

→社会教育委員について、令和 6 年度で退任される。

6. 各委員からの意見等

(A 委員)

- ・温かく一人一人に分かりやすい授業が展開されている。しかし、中学校への不安もある。小規模の良さを生かしながら、中学校への不安を解消させていくとよい。
- ・オープンスクールで授業を見たが、他校との交流経験はよい体験になる。

(B 委員)

- ・4年生はノートに考えや感想を書いてから交流を行い、6年生はタブレット上で考えを書いて、交流を行っていた。自分の考えを持つ場面で、学に応じた方法で力をつけている。
- ・大桑小グランドデザインについて、多様な人々と接する機会があり良い。体験ばかりが強調されがちであるが、外に出て発表をしたり人と関わったりする力は、学校で培っている。子どもは、1日の大半を授業で過ごすので、行事などの体験活動と授業とのバランスを考えることが大切。
- ・子どもに力をつける。子どもに力があればたくましくなる。
- ・これからの入試でも知識を問うだけではなく、答えのない問いや課題に向かう力が必要である。

(C 委員)

- ・現代は様々な情報にあふれている。その中で子どもには、自分で考えて判断する力が必要である。
- ・1年生の算数は、考えを絵や図にかいて、それをアウトプットして、自分でも言ってみながら考えを確かなものにしていく。
- ・学校評価より「自分には良いところがある」について、その子に合った評価が必要。先生は大変だが、個々の発達に応じた評価が必要である。
- ・大桑小グランドデザインについて、「教育は人」である。加配教員など、教育の充実のために先生をもっと増やしてほしい。(民間人である我々が発言すべきである)
- ・考える道筋(学び方)を学ぶことを大切に、自分の思いを素直に話し聞けるようにすること、地域を含めて多様な人材を学校教育に入れること、この3つを大切に、学校と地域が協働して子どもを育てていくことを進めてほしい。

(D 委員)

- ・大桑城の歴史発表、大変素晴らしい。2月22日の「大桑城跡講演会」の発表も、来年度も進めてほしい。令和8年度の国指定に向けて盛り上げてほしい。
- ・カワニナの育成など、大桑農地環境を守る会の活動もやっていただいている。(令和7年度は、県指定のふるさと教育「水と森の学校」の指定校) ホタルがたくさん舞う地域になるとよい。
- ・学校評価から、「あいさつ」については、地域ではあいさつが返ってこない。進んでボランティアの評価は良くなっている。(常設資源回収を利用している方が増えた)

(E 委員)

- ・大桑小グランドデザインに関わって、会社ならば利益に向かって会社の方針を決める。学校は、どのあたりまで決めるのか、子どもの数や市や県、校長の方針、地域等の評価から指標をつくるとなると、学校運営をやっていくことはすごく責任がある。

※地域から1戸800円×300戸の協力をいただいているお礼（学校より）

（F 委員）

- ・ 学園の児童も安心して学校生活を送っている。低学年の授業では、自分の思いを発表している姿があった。子どもたちの自信につながっている。
- ・ 5，6年生の「大桑城の発表」を見せてもらったが、ステージに立って堂々と発表していた。子どもたちにも満足感があり自信となっている。今後もこういう場をつくってほしい。

（G 委員）

- ・ タブレットを使う時代。AI も進化している。時代の流れに取り残されてしまわないように、親としてもしっかりしないといけない。
- ・ 今はすぐに調べて答えを出せる時代だが、会社の仕事では、答えは1つではない。たまには、壁にぶち当たり、乗り越えていく力が必要ではないか。
- ・ 整理整頓の評価が低い。整理整頓について家庭でも教えるべきだと思う。
- ・ 自転車の法改正について、交通ルールを講話などを通して教えるとよい。（知らないことが多い）

（H 委員）

- ・ 先生と子どもの関係がよい。自分を出して活動している。
- ・ 1年生の算数は、根拠を大切に指導していた。理科では、グループで分担して実験を行う活動を仕組んでいた。協力して行うことを大切にしていた。3校連携での人との関わりも大切である。
- ・ 中学生が地域の行事でお世話になっている。昨日も「先輩と語る会」に参加させていただき、6年生の子と楽しそうに中学校の話をしていて、大桑小出身の児童が中学校でも活躍している。

<令和7年度へ>

- ・ 個々にたくましい力（自ら問題を見つけ、解決する力）をつけること。主体性を育む。
- ・ 歴史のある地域であることを生かし、「大桑城」「カワニナ」など地域の歴史や自然を知り、ふるさと学習をさらに進める。
- ・ 大桑城跡についての探究活動と発表にも地域と一丸になって積極的に取り組む。
- ・ 一乗小との交流も進めていく。（令和7年度は一乗小へ訪問する）
- ・ タブレットと活用と体験・経験（体を使った）のバランスを大切にしたカリキュラムを仕組む。
- ・ 今後、少子化が進むため、地域人材バンクへの登録の呼びかけと教育活動への活用を進める。

（見守り活動も追加）

- ・ 人と人とのつながり、地域とのつながりもあいさつから始まる。そこで、「あいさつ」がいつでも誰にでもできる子にしていく。「整理整頓」についても、道徳教育、家庭、地域で取り組む。
- ・ 3校連携については、今年度の財産をもとに、教育の質を高める。